

こうつきがわ

甲突川河川激甚災害対策特別緊急事業

受賞機関 鹿児島県鹿児島土木事務所

はじめに

鹿児島市内を貫流する甲突川は、河川沿いに緑地が整備されるなど市街地の貴重な河川空間として市民に親しまれてきたが、平成5年8月6日の記録的な豪雨により氾濫し、約12,000戸の床上、床下浸水を引き起こすとともに、150年ほど前に築造された5つの石造橋の中で新上橋、武之橋も流失した。鹿児島県では、「河川激甚災害対策特別緊急事業」を導入して河川改修を行うとともに、整備に当たっては良好な河川環境の保全と創出を図るため「水辺環境整備計画」を立案し、以前にもまして市民に親しまれる川づくりをめざした。

事業概要

河川名：2級河川甲突川

事業期間：平成5年度～平成9年度

事業延長：9,400m

計画洪水流量：700m³/s

事業費：26,800百万円

事業の特徴

激特事業は天保の改修以来の大規模な改修であり、5カ年という短期間で工事を施工するため、甲突川の河川環境に大きな影響を与えると考えられたことから、川づくりの専門家や有識者を委員とした「甲突川河道環境検討委員会」を設置し、河床を含めた河道の安定、動植物の棲息、水辺の利用等の問題について助言、提言を受けながら改修を進めた。

施工上の特徴としては、甲突川には藩政時代の改修の石積護岸が残るほか、他に例を見ない4連、5連の石橋が5橋も架けられているなど、石が甲突川の景観の重要な要素となっていたため、激特事業においても護岸は石積とし、長く市民に親しまれてきた甲突川の景観を損なわないようにするとともに、複断面の低水部は生態系の配慮するため、空隙の多い玉石護岸とし前面に木工沈床を設置した。

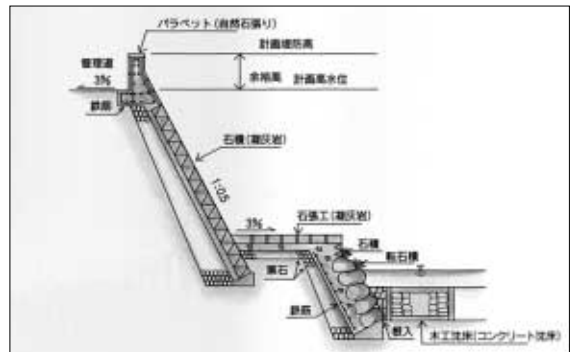
また、激特事業による河川改修と同時に、各種流域対策を進めることとし、関係各機関と協力して、内水対策として都市下水路の新設や改良、流出抑制



自然石護岸の植生回復状況



散策路として利用されている低水護岸



甲突川護岸標準構造図

のための公園や学校における貯留施設の設備を行うほか、各家庭における貯留、浸透施設への補助を通じての啓発、水位・雨量等の情報伝達システムの開発等の総合治水対策を進めた。

現在、整備された甲突川は、水際の小段へ随所に設けられた階段を利用して気軽に降りることができ、周辺住民の新たな水辺の散策路となるなど、広く市民に親しまれるとともに、近年メダカの生息が確認されるなど魚類等の生物が生息しやすい潤いのある川となっている。